

第4回「函館TOM向上推進事業」映像制作検討懇話会 会議録

【開催日時】 平成29年9月21日（木） 14:00～16:00

【開催場所】 函館市役所8階旧喫茶室

【出席者】 委員）奥平委員（座長），山口委員，富永委員，若松委員，大場委員，岩田委員，中尾委員，佐々木委員，安立委員

事務局）函館市企画部
種田部長，田畑室長，竹崎政策推進課長，
山口主査，菊地主事
函館市教育委員会学校教育課教育指導課
阿部指導主事

- 【次第】
- 1 開 会
 - 2 議 事
 - (1) 映像制作に関する形態
 - ①映像スタイル
 - ②映像の長さ
 - ③映像媒体
 - ④その他
 - (2) 映像の活用方法
 - (3) その他
 - 3 閉 会

議事（１）意見交換 発言要旨

○映像制作に関する形態について

【奥平座長】

小・中学校のインターネット環境について事務局に報告いただきたい。

【事務局】

校内は全て無線LANが整備されており、各教室にプロジェクターとスクリーンが設置されている。

インターネット回線は亀尾小学校、鱒川小中学校、旭岡中学校、銭亀沢中学校はADSL回線となっており、それ以外は全て光回線となっている。

【奥平座長】

映像制作に関する形態について意見交換する前に、山口委員に他都市の事例について再度紹介いただきたい。

【山口委員】

今回は前回取り上げた多摩探検隊や愛知県岡崎市、茨城県日立市などの映像コンテンツを今からプロジェクターでスクリーンに映し、どのような映像なのか実際に確認していただきたい。

紹介させていただいた事などを、今回の映像制作と合わせて提供出来れば有効だと思う。

【奥平座長】

ドキュメンタリー形式、アニメーション併用形式など色々な映像を見ることが出来たと思う。

それでは、皆様から自由にご意見をいただきたい。

【安立委員】

「はこぶら」に掲載している観光プロモーション動画は、細かい題材に分かれたものは2分、総合的なものは5分程度で魅力を伝えている。

映像を教材の補助として作るのか、子供たちに函館を愛してもらう作品を作るのかで作り方が全く異なってくる。

コンテンツからではなく、作品の狙い、成果物のイメージから固めた方がいいのでは。

【奥平座長】

教材となれば短いものの方がいいが、今回は教材だけではない。

ある程度のストーリー性の上に、ばらばらに乗せる様な事を考えていかななくてはならないのではと感じる。

ストーリーは今後精査する事とし、まず外枠を決めないといけないと思う。

その場合、大きなテーマでいくとすれば何がいいのか、ご意見いただきたい。

【安立委員】

例えば、「まちを愛し、人を愛し、自分を愛する」(TOM)はどうか。

【奥平座長】

郷土愛になると思う。郷土愛をどういう切り口で表すのか。

外部の人たちが見て興味を持ちそうなテーマは何なのかも考えなくてはならない。

【中尾委員】

そこまで広げると焦点がぼやけると思う。

まずは映像が教材の補完なのか、そうでないのかを確認してから議論したい。

【奥平座長】

事務局の考えを伺いたい。

【事務局】

スタートは、街の魅力を高める、街への愛着を持てるような60分位の映像を作ればと思っていたが、学校で使ってもらえなければ意味がない。

学習指導要領にある程度沿いながらも、子供たちに興味を持ってもらえる様な5分程度の短い映像が積み重ねていって、郷土を愛する心が育まれるようなストーリー性をトータルで持てるような映像を作れないだろうかと思っている。

【奥平座長】

5分程度の映像を12本集めれば60分の大きなものになる。

テーマを設定する場合、大きいテーマを設定しそれを細分化するのがいいのか、それとも小さいテーマを積み重ねるといいのか、ご意見いただきたい。

【大場委員】

どちらかと言うと小さいテーマを積み重ねるのがいいと思う。

例えば「魅力度No.1 函館のまち」という視点から、どんな所に今の函館の魅力が秘められているのかを見つけ、幾つかのコンテンツ・映像を集める。いくつかの中テーマでコンテンツが揃うと、函館の魅力を伝える映像集になると思う。

【富永委員】

中テーマは、まち編、人編、将来像編にするといいかもしれない。

【中尾委員】

五稜郭の昔と今を写真などで比較させ、次どうなっていくのか考えさせるなど、子供に面白そうだなと思ってもらえるものにしたい。

【山口委員】

写真そのものの素材の魅力・面白さは大事だと思う。

【奥平座長】

写真を集めた映像に所々アニメーションを差し込む方法も面白いかもしれない。

【山口委員】

今までの検討懇話会の中で出てきた映像に盛り込みたい事項が見える化し、「まち編・人編・将来像編」に分けた時どれにあたるのかやるといいかもしれない。

【岩田委員】

まち編は歴史、産業、観光、交通ではないか。

歴史では、地図も中に入れながら作るといいと思う。

【奥平座長】

地図を使うとすると、過去と現在のデータを比較するのも面白い。

【大場委員】

考えていた視点が3つある。

一つは「魅力度No.1である今の函館を見つめる視点」、もう一つは「産業とそれにかかわる働く人という視点」、最後の一つは「大火や水道なども含まれる歴史や文化の視点」である。

【佐々木委員】

重要なのは、子供たちにどう興味を持たせるかではないか。

興味を持ってもらうには函館の良い所を打ち出す方がいいと思う。

函館の歴史と文化は素晴らしいと思っている。人が歴史を作り、人が文化を作る。行き着くところは人だと思う。そうすると全て「人編」に集約されるが、歴史を取り上げた場合、歴史自体を切り口とした方が面白いケースとその歴史を作

った人を切り口とした方が面白いケースなど、多くの切り口が考えられる。

子供たちが学習を深めていくきっかけとなるような映像を作ると考えると、大元には数分間のダイジェスト版的なものがあり、そこから枝分かれして、それぞれの現場で使いやすい短いものにしていくような形というのが考えられればいいと思う。

【奥平座長】

映像に求められているものは、子供に函館の素晴らしさをどう伝え、それをどう次の世代に伝えていくのかという事だと思う。

そうすると函館の成功例、良い所を上げないといけないのではないか。

【安立委員】

「函館のお宝」というテーマを1本設定し、その中で国宝、などのお墨付きのあるお宝から、今までの函館の歴史の中で培ってきた街のお宝みたいなものを1個1個取り上げてみてはどうか。

【山口委員】

「函館のNo.1」を掘り出してまとめてみるのもいいかもしれない。

【安立委員】

今みんなが実感できるお宝、大事にしていきたいものを集めて紹介するのも面白いと思う。

【奥平座長】

映像媒体は、今まで話をしてきた中で、市のHP、配付用のDVD、市外へ発信出来るYouTubeがいいと思う。

それでは皆様には次回検討懇話会までに函館のお宝やNo.1について集めていただきたいと思う。

○映像の活用方法について

【大場委員】

映像は、小学校では、社会科、総合的な学習の時間、道徳教育等で扱えると考えられる。

【岩田委員】

函館出身ではない教員が地域学習をするための素材を作るための手掛かり、参考にもものなると思う。

【山口委員】

まち歩き、まち案内の様なものも補うことが出来るのではないかと。

函館のまちに関心を持っている人に向けての良い材料として提供出来ればと思う。

【中尾委員】

市民に対しても間違いなく役に立つものになると思う。

【安立委員】

観光客にも使ってもらえると思う。

市のHPの目立つところに動画の枠を設置し、そこで映像を再生できるといいと思う。

【富永委員】

市電などに映像へのQRコードを載せた写真を配付・掲示すれば、QRコードから映像にたどり着くことができる。

観光客がよく目にする所に、そのようなものを配布・掲示するといいかもしれ

ない。

【佐々木委員】

小学校の教育現場で利用してもらう事が重要だが、それ以外でも活用してもらうにはPRが重要であると思う。

PRを上手くやらないと、いいものを作ったとしても埋もれてしまう。

【富永委員】

作った映像がどこで使えるのかの対応表を「わたしたちの函館」の中に作ってあげると教育現場で使いやすいと思う。

以上